

toVO トウゴ  
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 4

No.042 - 100号まで、残り58家族、58ヶ月



NO. 042

あまりの100家族、わたしたちのこれから。

20150911





今号（43家族目）のご家族▶

福田 藍至さん・優子さん

撮影場所▶津軽こけし館（黒石市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶藍至さん「取材先で車に乗っている時に地震が起きました。信号が消えているのを見て、とりあえず会社に戻ることに。それからすぐに会社の人と手分けして市内の様子を見に行きました。市内は停電してバタバタとした感じはあったけど、交差点では自発的に交通整理をする人がいたりして、非常時の混乱の中にも『弘前はなんとかなりそう、大丈夫』という感覚が自分の中で生まれたように思います。会社に戻ると非常用電源で電気が復旧していて、その時、一番に飛び込んできたのが津波の映像。『なんとかなるだろう』って感覚が吹き飛びました。想像を越えることが今起きているんだと知りました。その日は社員総出で情報収集をしたのに、結局、輪転機が回せずに新聞が刷れなくて。非常事態だからこそ新聞を刷らなきゃだめだろうと思っていたのに、それが出来なくて悔しい思いでした。自分にとってはそういう意味でも忘れられない震災当日でしたね。」

▶優子さん「当時は結婚する前で、私は八戸に住んでいて、地震があった時は三沢の職場にいました。地震がきて、とにかく避難！ということで会社のみんと外に出ました。直後はケータイが通じたので藍至さんと家族に、とりあえず無事だよって連絡して。職場は工場なので社員みんな安全確認をして、それから八戸に帰ることに。通勤で使っている道路が通行止めになっていて、停電で暗い中ずいぶん時間をかけて自宅まで帰りました。停電の備えもなくて困っていたら先輩からの電話がたまたま繋がって、うちにおいでよと言ってくれました。結局電気が復旧するまでの2日間、先輩のおうちにお世話になりました。」

●地震のあとで心境や生活の変化はありますか？

▶優子さん「地震の直後は工場を動かす燃料がないから仕事が出来なくて、はじめのうちは会社に行って出来ることをやっていたけど、途中からは自宅待機になってしまって。そんな日が何日も続くと、これからどうなるんだろう...って、すごく不安でした。生活が元通りになるまでには1ヶ月くらいかかりました。習慣としては懐中電灯を玄関に置いて、食べるものを備蓄するようになりました。それは今でも続けています。

あとは時間の使い方かな...。今までは自分のやりたいことでも、時間がないとか仕事があるからとか、言い訳をして後回しにしてたものもあったけど、やっぱりやりたいことはやった方がいいんだと思うようになりました。地震の時家族が近くにいないくて不安だったことも、もしかしたら結婚するきっかけの1つになったかな。」

▶藍至さん「生活自体にあまり変化はないけど、以前と比べてお金の使い方を意識するようになり

ました。何かを買う時、お金を払う時に、そのお金はどこに行くんだろう？と考えるようになりましたね。」

●自身でもイベントを主催し、売上の一部をトヴォに寄付して頂いていますが？

▶藍至さん「震災直後は色んな団体が被災地への寄付を募ったり、復興支援と名のつくイベントも多かった。『寄付行為』って、それ自体はやっぱりハードルが高いことだし、慈善団体に直接お金を寄付するというのは、誰にでも出来ることじゃないと思います。一方でトヴォのグッズがかわいいから買って、実は払ったそのお金は被災地に行くんだよ、というふうに考えるとずいぶん親しみやすい。トヴォは寄付行為を身近にしてくれる存在だと思います。震災の風化ということもずいぶん前から叫ばれているけど、少なくとも自分はトヴォのことを知っているから、おのずと震災について考える機会を持てている。『身近な寄付』のポップアイコンとしてトヴォがもっと広がって欲しいと思うし、自分みたいにトヴォを通じて、震災を頭に留めておく人が増えてくれればと思っています。」

●10年後のイメージは？

▶藍至さん「子どもが出来ていればいいなと思います。子どもの歳とか、人数とかはわからないけど。10年後もまだ震災からの復興は途中段階だと思うので、報道に携わる立場としては『まだ何も終わっていない』という認識を持って報じていくことが大切だと感じています。」

▶優子さん「あまり想像はできないけど...。私も子どもがいればいいなって思う。地震のあと、少しずつ生活が元通りになっていく中で、スーパーに物があるありがたさとか、仕事ができる嬉しさとか、当たり前のことって大切なんだと気付きました。その気持ちをこれからも、10年後も、大切にしていきたいなと思います。」

【取材後記】新聞記者の藍至くん、3.11時は八戸に住んでいた優子さん。2人はずっと前から夫婦だったような気がして、『3.11の時はまだ結婚する前で...』と切り出された時はなんだかドキッとした。でも、よく考えたらもう4年半も前のことを聞いているんだ。4年半の間に家族の形が変わることも、当然あるよなあ...と、2人の思い出の場所でこけしを眺めながら、しみじみと時間の経過を感じました。(今号No.042の撮影とインタビュー担当者：工藤文昭)

【寄付総額】2011年6月～2015年8月30日まで「¥3,532,702」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。